

共命鳥

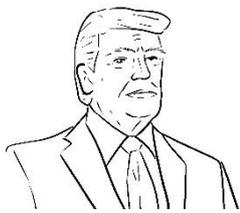
浄土真宗の法事でよく勤める『阿弥陀経』には、極楽の鳥



「ご主人はスマホでどうぞい
てきん人はどうす
るの？」

が六羽登場します。その中に共命鳥がいます。『阿弥陀経』には共命之鳥と出てきます。一つの胴体に二つの頭がある鳥です。二つの頭にはそれぞれ意思があります。お互いの頭は考えていました。「私の方が羽色はいいし、声もいい。私が一番だ。」お互いに考えました。「あいつ邪魔だな。」と。

片方の頭が、行動を起こしました。毒の身をもう片方に食べさせたのです。食べた頭は死んでしまいました。「邪魔者がいなくなった」と喜んでいたのもつかの間、毒が反対の頭から体に伝わり、自分の頭に伝わってきたのです。そして、苦しみのうち回り死んだのです。その愚かな鳥は、愚かさを伝えるために極楽の鳥として生まれ、仏法を説く鳴き声を出します。「他を滅ぼす道



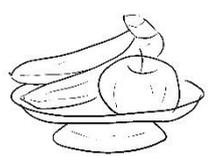
は己を滅ぼす道、他を生かす道こそ己の生かされる道」
大国が自国第一主義を掲げる時代。
他を滅ぼせば自らも滅ぼすのです。

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

供物

よく相談を受ける事のひとつに、「お供えはどうしたらいいでしょうか」と聞かれま



す。お供物の事です。今回のテーマです。まず、「供物」とは「供養」する物のことをいいます。「供養」とは尊敬する方をもてなす事です。もてなす物のことを「供物」といいます。

物といいましても、お菓子や果物ばかりではありません。蝋燭、お花、お香なども供物に入ります。仏飯も入ります。

冒頭の質問、「お供えはどうしたらよいでしょうか」の答えですが、尊敬の念をもつてそれぞれができる範囲でおもてなしをしましょう。お菓子をお供えしたり、果物をお供えしたり、お花を変えたりしましょう。

そして、尊敬する方に捧げますので、とげのある花や香りが強すぎる花は避けましょう。すぐに傷むようなお刺身などのなま物をお供えすることは避けましょう。

もうひとつよくある質問。「一人暮らしになってお米を毎日炊きませんか。お仏飯はどうしたらいいでしょうか」と聞かれます。私は「お米を炊いた時にお供えしましょう。でも、毎日お仏壇に手を合わせることはしましょう。」と伝えています。

